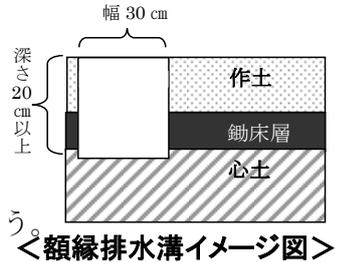


適正な「排水対策」・「土づくり」・「播種作業」を行い、 目標苗立数と初期生育を確保しましょう！

1 排水対策の徹底

- ◎降雨後も早めに耕起・播種が可能に！
- ◎砕土率、播種精度が向上し、苗立安定&除草効果アップ！

- ・用水路や水口からの漏水を防止しましょう。
- ・ほ場が乾いているときに、幅30cm、深さ20cm以上を目安に額縁排水溝を**確実に設置**し、深く掘り下げた排水口に連結しましょう。
- ・ほ場内に停滞水ができないよう、播種後は排水溝の点検と手直しを行いましょう。



2 土づくり

- ・耕起前に必ず**マグフミン(粒)**を100kg/10a施用し、**土壌 pH 6.0 ~ 6.5**を確保しましょう。
- ・地力向上のため、堆肥等の有機物を積極的に施用しましょう。

＜堆肥施用量の目安＞

種類	施用量/10a
牛ふん堆肥	1 ~ 2 t
発酵鶏ふん	100kg

3 病虫害防除

- ・種子伝染性病害やフタスジヒメハムシ等の加害を防ぐため、必ず**種子消毒**を行いましょう。

薬剤名	処理方法	対象病虫害等
クルーザーMAXX	種子 1kg 当たり 8ml塗沫	紫斑病、茎疫病、タネバエ、ネキリムシ類、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ、ハト（忌避）
キヒゲンR-2 フロアブル (病虫害発生が少ないほ場)	種子 1kg 当たり 20ml塗沫	紫斑病、タネバエ、ハト（忌避）

4 播種作業

- ・ほ場が乾いた条件で、**耕起、砕土・整地、播種、作溝の一連の作業**を1日で行い、**砕土率 60%以上**を確保しましょう（右写真参照）。
- ・目標栽植本数を確保するよう事前に播種機の調整（ダイヤル調整、ロール、スプロケット等）を行いましょう。
- ・作業速度は0.5m/秒程度の速さ（3連の播種機で30aほ場を70分で播種する速度）とし、**確実に播種**しましょう。
- ・**播種深度は3cm**を目安としましょう。
- ・除草剤は、播種後、土が乾かないうちに散布しましょう。



＜砕土率60%以上の土壌＞

＜播種時期別的大豆播種量＞

青立ちが懸念されるほ場は、6月上旬以降の播種を！

品種	播種時期	栽植本数 (本/10a)	播種量※ (kg/10a)
えんれいのそら	5月26日～6月上旬	14,000～16,000	5.2～5.9
	6月中旬	16,000～18,000	5.9～6.7
シュウレイ	5月26日～6月上旬	12,000～15,000	4.8～6.0
	6月中旬	15,000～18,000	6.0～7.1
オオツル	6月上旬	10,000～12,000	4.2～5.1
	6月中旬	12,000～14,000	5.1～5.9

※大粒の百粒重:「えんれいのそら」33.4g、「シュウレイ」35.7g、「オオツル」36.3g
(苗立率90%の場合)

＜基肥量の目安＞

青立ちのリスクが高まることから、過剰施肥は避けましょう！

肥料名 (N:P:K)	土壌条件	施用量 (kg/10a)	
		単作	麦跡
BB 基肥 084 (10:18:24)	砂壤土・壤土	30～40	50～60
	埴壤土	20～30	40～50

＜除草剤＞

除草剤名	散布量 (/10a)
トリアリサイド 粒剤 2.5	4 ~ 6 kg
ラッカー 粒剤※	4 ~ 8 kg
プロールプラス乳剤※	400~600ml

※散布直後の多量の降雨により薬害を生じる恐れがあるので、天候を見極めて散布しましょう。

- ◆「農作業事故ゼロを目指して事故防止対策を徹底しましょう」春の農作業安全運動実施中！（3/1～5/31）
- ◆「守ろう農薬ラベル 確かめよう周囲の状況」富山県農薬危害防止運動実施中！（4/1～9/30）